第５７回神奈川建築コンクール　住宅部門審査総評　　審査委員　　宮　晶子

　表彰作品は、書類審査後の一次選考、現地審査後の二次選考を経て選出された。両選考とも、各審査員の投票とその結果を元にした合議による。二次選考では、書類選考では示されていなかった周辺環境との関係が議論の中心となった。また、開口部のあり方も現地におとずれてわかることが多く、各審査員共通で感じていたことが議論の中で浮かび上がった。コンセプトはもとより、環境と身体との関係を、ものとして美しく現実化するべく、考え抜くことの重要性を改めて感じた審査となった。

以下、表彰作品を紹介したい。（得票順）

最優秀賞の「柿畑のサンクン・ハウス」は、柿畑の広がる周辺環境と一体となって住む場が見事に実現化された住宅である。四周がガラスで開放的であると同時に、柿の木の高さにあわせた天井と腰の高さほど掘込まれた１階の床、深い庇など、屋内に居場所としての求心性を獲得することに成功している。中心のコアを囲む扉は居住スペースを仕切る役割もある。明快な平面システム及び断面計画。その秀逸な全体構成の発案に留まることなく、寸法体系や色彩計画、ディティールワークまで、空間化に至る建築家の総合的な力量が最優秀賞にふさわしいと評価された。建て主は、黒く塗られたサンクン空間に対比的なビビッドカラーの家具を点在させ、場のアイデンティティに共鳴しながら住まい方も印象的だった。

「MOH」は、東京都心から南足柄に移住を決意された小さなお子さんのいる家族が新しい生活イメージを一枚の紙にしたため建築家に伝えることから設計が始まっている。建築家はそのイメージを、ずれた十文字のプランで具現化した。それは、4 つの異なる庭の領域をつくりだしながら、内部には、細くながくゆるやかなつながりあう場をつくりだしている。出色なのは、そのプランに対して 45 度に振った木梁が大きく布のように波打ちながら掛けられた屋根架構である。プランと屋根の異なる二つの形式が豊かな奥行のある空間を生み出していた。そこでは、広い土間空間を中心に家全体に建て主家族の創造的な営みが展開しはじめており、今後４つの庭が使いこまれ、内外の融合がよりはかられていくことが楽しみである。

「秋谷の家」「和賀材木座の家ー空の箱」は、同じ建築家による住宅で、どちらも葉山と鎌倉という海に近いロケーションにある。玄関はなく入るとすぐに土間空間が広がり、そこに、あるいは隣接してサニタリースペースが設けられることに共通する特徴がある。その気積のある土間空間は住まいの中に開放感と公共性をもたらし、家族の中に、適度な距離感を生んでいるように感じられた。また、実際にもカフェや店舗などにも展開できるポテンシャルがあり、伝統的な町家のような社会性を内包する家のありかたは、広く一般住宅への提案にもつながる。

それが、建て主個々の生活によりそう、各場所に応じたダイナミックな空間構成として、熟考された寸法や材料の選択によって実現されている力が高く評価された。
「Le49」は鎌倉山の中腹、相模湾を遥かに見渡し、隣地には巨木が茂る絶好のロケーションに建っている。建て主は、そこに世界中からのゲストを迎えるおもてなしの場所として非日常的な空間を望まれた。敷地の形状から導かれた不定形な五角形の RC 基壇(1 階)の上に、寄せ棟屋根を載せた大空間は、外部への視線の抜けを大胆に展開しながらも、内向性のある落ち着きを同時に獲得していた。その無柱空間は鉄を木で挟んだハイブリッドな梁と精緻なディティールワークによって成立しており、大空間に穏やかな木のリズムを刻み、日本的な質をも求めた建て主の要望に対して、建築家の高い技術力と美学によって応えている。
「Almadillo」は、鎌倉の特徴的な谷戸の山間、山の斜面下の擁壁と母屋に挟まれて建つ小さな離れである。残された場所の形状から素直に導かれたコンパクトな菱形の平面の上に載せられた大きな鎧のような波形鉄板屋根は、確かにアルマジロの背中のようでもあり、前からそこに“居た”かのように、存在感を示しながらも風景にしっくりと納まっていた。その大屋根は、構造用合板で固めたモノコック的な構成で、三角形の木造フレームと宮大工の仕口の技によっている。施工者とのチームワークや、建て主と一緒に無垢に建築を探し出していったという過程は若き建築家にとって今後の自身の指標になる作品となるであろう。
また、アピール賞の「アトラス上大岡ヒルズ」は、大規模な集合住宅である。隣接する同じ事業体が開発した戸だて住宅群との公園、緑、広場や集会室の共有を目指している点が特筆に値する。また、地形の起伏を生かした緑豊かな中庭とそれに面する共用空間や開放された屋上空間など、住民のためのアメニティスペースの計画にエールを送ろうということとなった。しかし、各住戸は共用部に対して閉鎖的で、外部廊下のデザインは洗練されているが、室外機がならぶ従来型のものであり、住民意識と共に、今後大規模集合住宅における集合のあり方そのものへの提案を求める声も多くあがった。